

**令和3年度第2回廿日市市総合戦略推進会議
議事要旨**

日時：令和3年3月25日（金） 13:00～14:30

場所：廿日市市役所7階会議室

1 開会

2 報告 令和2年度地方創生推進交付金活用事業効果検証結果シートの修正について

3 議事(1) 第2期廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

委員 宮島で保育園を運営しているが、過疎地域等介護人材確保・定着支援事業について、同様に保育士の確保が難しい。保育士についてもやってもらいたい。

委員 「上質な保養地としての魅力を高める」とあるが、イメージが難しいので、具体的な内容、例えば、富裕層にとって上質な保養地として認められるエリアを作るといように書いてもらえば分かりやすい。

座長 少し先を見た戦略が必要であるが、市民がそれを想像しづらい。4、5年先に見える形が分かる方が総合戦略に追記しやすい。

委員 持続可能な地域づくりのために、市としてどう支援していくか、具体的な支援のあり方を考える必要がある。

市 令和4年度は「過疎地域暮らしのDX推進業務委託」という予算を組んでおり、吉和地域での交通や医療、買物などの分野を掛け合わせてデジタル技術を活用して実証実験をすることとしている。令和5年春に供用開始する吉和支所複合施設を拠点にして機能強化を図っていく。

委員 「スポーツを核としたまちづくりの推進を図るため、…」とあるが、これは、スポーツ活動の場を作るハード事業なのか、そこに集まったソフトの開発も含めた事業なのか。施設を作るといったハード事業だけでは、KPI「市の取組を知り、廿日市市に暮らすことに興味・関心がわいた20歳代～40歳代の割合」「20歳代～40歳代の転入者数」を達成するのが難しいと思う。

市 佐伯総合スポーツ公園の再整備を行う事業であるが、まずは、場の整備をして地域活性化に結び付けていきたいと考えている。この場を活用して、子どもたちのアスリート触れ合い事業や、プロスポーツとの連携により地域での活動を進めていきたい。ソフトとハードの両方をやっていきたい。

委員 スポーツの競技を絞ると、参加できる子どもが限られてしまうので、広く参加できる取組をしてもらいたい。

市 スポーツをする裾野を広げることが難しいようなので、子どもたちがスポーツに興味を持ってもらえるようなスポーツの入門のような体験を進めていきたい。

委員 中山間地域には外国人が増えている。今、我々のボランティア団体で、外国人やフリースクールの生徒たちが農繁期に農業を手伝って金券をもらい、バザーでその金

券が使えるような仕組みをつくらうとしている。そのようにして中山間地域をサポートすれば、空き家対策にもなり、中山間地域の持続可能な地域づくりにつながる。

座長 ご提案の取組は、同じ小施策内の「外国人市民が地域社会の一員として暮らせるよう支援する。」を補強する取組になる。

委員 「お宝ザクザクはつかいち」のK P IにJ A産直市場の売り上げ高があるが、例えば、はつこいマーケットやバラ園、4月にオープンするまちの駅アドア大野の売り上げ高についても目標値を設定していくとよいのではないか。

市 まちの駅は総合戦略にも位置付いている事業なので、K P Iの追加や時期については検討させてもらいたい。

委員 「スポーツを核としたまちづくりの推進を図るため、…」ではニーズに合ったスポーツ施設の改修とあるが、女子野球タウン構想やプロスポーツチームの周知はどちらかという市がそういうまちづくりがしたいというように聞こえる。市内では、自然のアスレチックなどに人気があり、ニーズはそのあたりにあると思うが、どこを示唆されているのか。プロスポーツの活用もいいと思うが、地域にある宝、自然のアスレチックなどに対してのニーズも視野に入れて考えてもらいたい。

市 佐伯総合スポーツ公園には、体育館や陸上競技場、野球場がある。また、公園なので大型遊具なども整備されている。ここでの記載はスポーツを核としたまちづくりということで、「する、みる、ささえる」、それぞれの面からの参画の仕方ができる整理をしていきたい。

座長 人口減少への対応ということをかみ砕いていくと、目立ったことや非日常の部分にばかり取り組むのではなく、廿日市に暮らすことに興味を湧くような、住んでいる人も訪ねてくる人も癒やされる、楽しめる、暮らし心地を高めるということもしてもらいたい。潜在的移住希望者のニーズと施策とのギャップを感じる。

市 佐伯総合スポーツ公園の大型遊具をめがけてこられたファミリー層に、公園だけでなく中山間地域のあちこちに立ち寄って帰ってもらいたいという回遊促進事業を行っている。女子野球タウン構想も、市内外の交流の促進を目的としており、佐伯総合スポーツ公園の整備は、ハード・ソフト通じてスポーツのまちとしてのブランド力を高めるプロモーションとしての取組を連携してやっていきたいと考えている。

座長 今回D Xが追加されている。現状では、全ての人にバリアフリーのD Xとなっているのか。というのも、D Xを推し進めればするほど、使いづらい、アクセスしづらいなどという状況が起こる。もし、そのような状況はすでに解消されているのであれば、しっかり進めていけばよい。そうでないのであれば、使える人を増やす取組をしていかなければならない。また、D Xを外部人材で整えるのではなく、廿日市市の中で人材育成をした方が、持続可能なものとなる。廿日市市でのD X人材の育成、D Xを活用して儲けることができる人を増やすという視点もしっかりと考えてもらいたい。

4 その他 企業版ふるさと納税について

5 閉会